

博士学位論文審査の要旨

【学位論文審査の要旨】

提出された学位論文は「放射線疫学調査における交絡因子調整の重要性」である。現在、放射線防護基準は国際放射線防護委員会の勧告に基づき、この基準は短時間に高線量を被ばくした原爆被爆者を対象とした健康影響調査結果を元に定められている。しかし、低線量・低線量率の放射線による健康影響については不確定な部分が多い。その理由は、放射線リスクを阻害する交絡因子の調整が不十分なためである。本研究の目的は交絡因子の影響を明らかにするためである。放射線影響協会による膨大なアンケート調査・研究の結果、被ばく線量の増加と共に喫煙率が増加する傾向が見られた。被ばく線量の高い集団ほど喫煙率が高いという交絡要因は、職種と喫煙率の関連であり、解析集団を職種別に分類して喫煙率を算出した場合、被ばく線量が高い原子力施設の保守・補修職で高い喫煙率が見られ、被ばく線量が低い事務、研究において低い喫煙率となった。職種群の中で被ばく線量と喫煙率を算出したところ、いずれの職種においても被ばく線量の高い群ほど高い喫煙率を示した。調査研究の結果、放射線リスクの検討に当たっては、放射線以外のリスク要因を調整により除外することが必要であることを明らかとした。平成31年02月05日に行った最終試験での口述試験および口頭試問では、研究成果について明快なプレゼンテーションを行い、また質疑に対しては的確な応答を行った。以上から、試験担当者は一致して、工藤伸一君は首都大学東京大学院 人間健康科学研究科放射線科学域 博士後期課程の論文審査および所定の最終試験に合格したと判定し、論文博士（放射線学）の学位を授与することが適当であることを報告する。